



第4回日本視野学会学術集会
ランチョンセミナー3

緑内障検査 最新の話

日時 2015年5月30日(土) 12:15~13:15

会場 第3会場 金沢市文化ホール 3F 大会議室

〒902-0864 石川県金沢市高岡町15-1



座長

山本 哲也 先生 岐阜大学大学院 医学系研究科 眼科学 教授

1979年 東京大学医学部 卒業

1991年 岐阜大学眼科 講師

1985年 山梨医科大学眼科 講師

2000年 岐阜大学眼科 教授

1988年 米国Michigan大学

正しい診断が緑内障管理の第一歩である。緑内障診断の分野では最近新しい機器、解析用ソフトウェアが活用され、従来の診断学では明らかでなかったいくつもの所見/知見が得られるようになってきている。それらは緑内障病型の確定、緑内障の有無の判断、進行の判断に大いに役立つものであり、また、緑内障の本態に迫る新知見も多い。したがって緑内障診療に携わる医療従事者が理解しておくべき性質のものである。

本セミナーでは眼圧検査、画像診断、視野検査を取り上げ、それぞれ一流の先生方により最新の情報をお届けする予定である。ご期待ください。

1. 眼圧検査

演者 **原 岳 先生** 原眼科病院 院長

2. 画像診断

演者 **赤木 忠道 先生** 京都大学大学院 医学研究科 眼科学 講師

3. 視野検査

演者 **松本 長太 先生** 近畿大学医学部 眼科 教授

共催 | 第4回日本視野学会学術集会 / ファイザー株式会社

SOT22F065A

1. 眼圧検査

原眼科病院 院長 原 岳 先生

緑内障の眼圧下降治療では、目標眼圧の設定が不可欠である。そのためには現状の把握が大切で、具体的には無治療時眼圧、進行時眼圧、既存薬剤使用時眼圧などが設定の参考となる。眼圧の評価には角膜の状態の評価も大切で、特に中心角膜厚は、眼圧の評価をする上でぜひ参考にしたい。また、視野障害の病期、進行の速度や治療期間、治療歴、余命、QOLなどを考慮することも重要である。点眼薬の選択はデータから期待される眼圧下降力、日内変動の考慮も必要な要素の一つである。



1989年	岩手医科大学 卒業 東京大学眼科学教室入局	2002年	日本緑内障学会評議員
1993年	大宮日赤（現 さいたま日赤）眼科 副部長	2005年	原眼科病院 副院長 兼 自治医科大学 非常勤講師
2001年	自治医科大学眼科 講師	2011年	原眼科病院 院長

2. 画像診断

京都大学大学院 医学研究科 眼科学 講師 赤木 忠道 先生

緑内障の診療では眼圧、隅角、眼底、視野など多くの検査が必要であるが、光干渉断層計（OCT）は高精度な診療には必要不可欠な存在となっている。

現在の緑内障診療におけるOCT検査の主流は乳頭周囲網膜神経線維層（cpRNFL）解析と黄斑部解析であり、緑内障の検出、進行の評価に有用である。最近では、乳頭縁をブルッフ膜開口部として視神経乳頭中心を決定し、その箇所における視神経線維層の最少厚を測定する方法がより精度が高いことが提唱されてきている。特に乳頭周囲網脈絡膜萎縮の著明な症例では乳頭中心をどこに設定するかで結果が大きく変わるため、この方法が有用と考えられる。

現状のOCT活用法と新しいOCT撮影法について紹介したい。



1998年	東北大学医学部 卒業	2004年	天理よろづ相談所病院眼科
1998年	京都大学大学院医学研究科眼科学 入局	2010年	京都大学大学院医学研究科眼科学 助教
2004年	京都大学大学院医学研究科 修了	2013年	京都大学大学院医学研究科眼科学 講師

3. 視野検査

近畿大学医学部 眼科 教授 松本 長太 先生

緑内障診断において視野検査は臨床上欠かすことのできない重要な機能検査である。その役割は大きく分けて、視野による緑内障スクリーニング、眼底と視野の対応を確認することによる確定診断、視野の進行評価があげられる。

視野による緑内障スクリーニングは、自覚症状のない緑内障患者を検出するためにも非常に重要なテーマである。家庭での視野異常の確認にはクロックチャートのような自己チェックシートが有用である。また検診などではFDTスクリーナーのような明室で短時間に測定可能なコンパクトな視野計が必要となる。現在我々も、標準的な自動視野計とほぼ同等の検査条件を有するコンパクトなヘッドマウント型視野計を開発し、その有用性について検討している。このセミナーでは、これら視野検査による緑内障スクリーニングについて述べたい。



1983年	近畿大学医学部 卒業	1998年	The Johns Hopkins Hospital, The Wilmer Eye Institute 客員講師
1989年	近畿大学大学院医学研究科 修了 多根記念眼科病院	1999年	近畿大学医学部眼科 助教授
1990年	近畿大学医学部眼科 講師	2007年	近畿大学医学部眼科 准教授
		2008年	近畿大学医学部眼科 教授